

第3学年 英語科学習指導案

日 時 平成19年10月12日（金） 5校時
対 象 3年生（男子8名 女子0名 計8名）
授業者 教諭 小野 綱行

1 単元名 道案内～乗り物での行き方を尋ねる・教える～ （New Horizon English Course Book 3 東京書籍）

2 単元について

（1）教材観

本単元は、どの学年でも取り扱われている「道案内」のまとめの部分に当たる。1学年では“Which bus … ?” や “Take … ?” を用いて目的地へ向かう会話を、そして2年生では “Could you tell me the way … ?” “Turn … .” などを用いて路上における会話表現を学んだ。

これらの既習表現を元に本単元では、文法的内容の習得を重点にせず、前時に「暗唱した教科書本文」と、それを元にした「地下鉄の地図」をテキストと捉え、「英会話」を通じて『情報の取り出し』と『解釈』、『熟考・評価』へとつながる表現活動を行う。

上記一連の活動の中では、会話における「有用表現」の習得を目指すだけでなく、以下のことをねらいとして、2時間扱いで指導を行う。

最初の1時間（前時）においては、前単元Unit4で学習済みの〈how to 不定詞〉が含まれた教科書上のモデル対話をもとに、「地下鉄を乗り継いでいく場面」における基本表現（Change trains at … ）の理解と対話練習に重点を置き、その全会話の暗唱を目指す。

本時（2時間目）は前時の補充的な時間とし、既習表現を使いながら、生徒達が修学旅行で実体

（2）生徒の実態

昨年度から当学年と授業を行っているが、当初は8名中全員が、何かしら英語学習に対する不安や苦手意識を持っていた。しかし今年度に入り、最高学年としての自覚と自信が高まるにつれて、学習自体に対する前向きな姿勢や態度が見られるようになってきている。

事前に行ったアンケート英語に対する技能においては、特に「聞く・読む」に対しての意欲が高く、音読については時間をかけて指導してきた結果、どの生徒も抵抗なく行えるようになってきている。反面「書く・話す」については多くの生徒がその向上に苦慮している。また同様に行った事前テストでは、1, 2年生時の既習内容である“Can you … ?” “Could you … ?” の勧誘表現や、“take” “get to” などの動作を表す表現の定着が十分ではないことが分かった。

どの技能においても、彼らが扱おうとしているテキスト（図や英文など）の中心である「動詞」や、話者の考えを表す慣用表現をどれだけ理解しているかは、英語を活用していく上で重要な部分である。本時においては、その現状を認識した上で、昨年度から定着させている「動詞カード」を用いながら、生徒の得意とする「聞く・読む」活動を導入に取り入れ、課題把握部において「書く」ことで、会話を構成するポイントを確かめる。

このような配慮を多く設定し、最終的に「話す」場面に深まりが生まれるよう工夫したい。また

（3）研究主題との関連

本校研究主題における「読解力」とは、OECD提唱の「PISA型」を指し、その中でも【情報の取り出し】【解釈】【熟考・評価】に絞った授業を行ってきた。本時において英語科では、自分たちがこれまでに学んだことを理解し、適切に運用する力を真の読解力と捉え、その定着のために表現活動を設定する。

これまで本校3年生は、主に教科書の読解を中心に行ってきたが、今回は「前時に暗唱した基本文と基本表現」と、「地下鉄路線図」をテキストと捉え、表現活動を行う。本時の会話を進めていく上で重要なのは、自分たちがこれまでに経験したこと（＝修学旅行の準備で使用した電車路線図）を元に、いかに相手側が必要としている情報を取り出し、自分なりの解釈を加え表現していくか、ということである。

生徒それぞれが持つ教科書本文に対するイメージは、会話を作り上げていく過程の中で重要な役割

3 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・モデル対話の内容に興味関心を持ち、その理解のために英文を大きな声で読んだり話することができる。

【表現の能力】

- ・地下鉄路線図を読み取り、基本表現を用いて対話を作り表現できる。

4 指導計画（2時間）

単元	学習内容	時間	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化に対する理解
Speaking Plus 3	教科書本文の内容理解と暗唱	1		教科書の内容を読んだり聞いたりして、その内容を日本語で説明できる。		会話の使用場面を意識しながら、基本表現の使い分けができる。
	テキストを用いた会話練習	1 (本時)	モデル対話の内容に興味・関心を持ち、大きな声で読んだり話したりしようとする。		正確な発音でモデル対話を音読したり、正確な表現で会話の内容を書くことができる。	

5 本時の展開

(1) 目標

- ・モデル対話の内容に興味・関心を持ち、大きな声で読んだり話したりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・正確な発音でモデル対話を音読したり、正確な表現で会話の内容を書くことができる。

【表現の能力】

(2) 指導の構想

本時の基礎・基本

- ・教科書本文を、大きな声で丁寧に暗唱できる。
- ・地下鉄路線図をもとに、道のりを聞いたり尋ねたりすることができる。

本時の指導過程の工夫

<PISA型読解力を活かす工夫>

本時では【情報の取り出し】として暗唱を行う。この部分を今回は、取り出した情報を生徒自身が無理なく使いこなせる準備と考え、単なる暗唱で終わってしまわないように、変化のある暗唱を行いたい。

また【解釈】の場面については、電車路線図から自分の現在地と目的地を読み取るだけでなく、対話者との応答内容や予測される表情などからも、会話の展開を読み解いて会話を作成できるよう、重要表現の部分を掲示するなどの支援を行いたい。

生徒が作成した対話文は、実際の会話を進める中で自分自身の【熟考・評価】の材料となる。ペアで会話練習する場面を数多く設定し、会話が自分のものにできるやりとりを増やす工夫をもちたい。

PISA型読解力の観点に対し英語科では、上記のようなアプローチを行い、これらの観点を授業の中へ意識的に取り入れ、それを最大限に活用できる授業を目指したい。

(3) 展開

段階	学習内容	学習活動 * は読解力に関する部分	・指導上の留意点 (評価 指導上の工夫)
導入 (5min.)	1. あいさつ 2. Warm - u p	・曜日や日時、天候などを元気に答える。 ・教科書の新出単語を確認する。 (合格できない場合は、単語練習)	・音や口の動きがヒントになるように工夫する。 ・単語練習へのアドバイスをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <学習課題> 電車路線図を元に、相手に道のりを尋ねたり教えたりしよう。 </div>			
展開 (40min.)	3. 課題把握(基礎基本の徹底) (1) 教科書本文の暗唱 (板書・学習プリント・ノート) 【情報の取り出し】 (2) 基本表現の確認 【情報の取り出し】 4. 課題追求 (1) 会話文のパターンプラクティス (2) ワークシートを元に会話文の作成 【解釈】 (3) 作成した会話文を用いた対話 【熟考・評価】 (4) 対話文の発表	・前時の課題である教科書の暗唱を行う。 (センテンス読み～Read & Look-upまで) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">教科書の路線図を元に、暗唱する。</div> ・重要な表現を口頭で確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">暗唱文を含む有用表現を確かめる。</div> ・路線図を元に、範読に合わせた音読 ・ペアで会話シートの作成と音読 (尋ねる側と答える側の両方に取り組む) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">対話者との応答や相手の表情などから、</div> ・完成したシートを用いた会話練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ペアと協力しながら会話練習する。</div> ・板書された路線図を見て、会話する。	板書済みの単語や重要表現のカードもヒントに暗唱する。 ・元気に読める雰囲気を作る。 モデル対話の内容に興味・関心を持ち、大きな声で読んだり話したりしようとする。 (コミュニケーションへの関心意欲態度) ・暗唱が不十分な生徒へは、 単語の読み方 各文章の始まり部分 の2点において適宜支援する。 文法カードの掲示も行う。 正確な発音でモデル対話を音読したり、正確な表現で会話の内容を書くことができる。 (表現の能力) ペアで考えた会話をお互いに評価し合い、練習を数多く行う。
終末 (5min.)	5. 学習課題のまとめ 6. 本時の振り返り 7. 次回の予告	・まとめのQ & Aに取り組む。 ・本時の行動について振り返る。 ・Gアップシートから課題を指示する。	会話準備や練習の状況から、適宜アドバイスを行う。 ・状況に応じて適宜問題数の

6 本時の評価 主観点 従観点

評価の段階	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要すると判断された生徒への支援・手だて
コミュニケーションへの 関心意欲態度	・モデル対話の内容に興味関心を持ち、自ら積極的に大きな声で英文を読んだり話している。	・モデル対話の内容に興味関心を持ち、その理解のために英文を大きな声で読んだり話している。	・モデル対話の内容について説明を加え、会話の流れを理解して英文を読めるように支援する。
表現の能力	・積極的に地下鉄路線図を読み取り、自ら基本表現を用いて対話を作り表現できる。	・地下鉄路線図を読み取り、基本表現を用いて対話を作り表現している。	・大きな声で基本文を暗唱させた後、英文を組み立てる上での要点を示す。